

教育目標

「かかわりを楽しみ、よりよい生活を創り出す子ども」の育成

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し  
保護者の方には、自園の教育や幼児期の子どもの発達を理解し、ご協力いただいている。子どもの姿や育ちについて発信を工夫し、保護者とも語り合う機会を大切にしてきたことが成果としてつながっている。下京雅小学校をはじめ、地域の就学前施設との連携を進めてきたことも、自園の教育の充実となっている。今後も、互いに語り合い、学び合う関係性を大切にし、よりよい教育を目指していきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策  
子どもたちや保護者が幼稚園で対して安心を感じ、楽しく過ごされていることを嬉しく思う。同敷地内に小学校があり、交流も盛んに行われていることも安心感につながっていると思う。小学校とも協力し、よりよい育ちにつながるよう引き続き、幼稚園教育の充実に向けて取組を進めてほしい。地域としても協力していきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月21日	学校運営協議会
最終評価	令和7年2月18日	学校運営協議会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・全教職員でのチーム保育により、子どもの育ちと安全、安心を保証する。
- ・基本的生活習慣の確立に向け、環境を整え、家庭との連携を図る。
- ・人権尊重を基盤にした互いのよさを認める集団作りを進める。
- ・子どもの背景をしっかりと見取り、幼稚園全体で共有し取り組むとともに、関係機関との連携を進める。
- ・子どもたちが夢中になって遊ぶことができる魅力的な環境を計画的に構成する。
- ・友達と一緒に、よりよい考えを十分に試し工夫することができる遊びを子どもと共に創る。
- ・積極的な校種間連携・接続で教育の質的向上を図る。
- ・架け橋プログラムの取組を推進する。
- ・地域の実態やニーズに合った子育て支援に努める。

（取組結果を検証する）各種指標

○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」
- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすい」

中間評価

各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価している。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.4%
- ・設問「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96.6%
- ・設問「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 93.3%
- ・設問「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 88.4%
- ・設問「教職員は話しやすく、相談しやすい」

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.3%

自己評価

分析（成果と課題）

保護者アンケートにおいて、概ね教育目標を達成していると考えられる。チーム保育により子どもの育ちや安全を見守る体制づくりや、子どもたちが夢中になって遊ぶ環境づくりの工夫をしてきた。保護者にも日々の幼稚園で過ごす子どもの姿から、幼稚園で大切にしていることや教育目標を理解し、協力しようとしていることが結果からも伺える。身辺自立の課題については、保護者と連携をし、丁寧に支援していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

今後も、季節に応じた環境や子どもの育ちにつながるような環境構成や援助を見直していきたい。支援の必要な園児も多くいる中で、教職員全体で見守る体制を引き続き構築していきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

保護者アンケートを実施する

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

運動会で子どもたちが楽しく体を動かしたり、その姿を保護者が温かい声援や拍手を送ったりして、みんなが運動会を楽しんでいる姿が見られ、幼稚園に安心して預けていることが感じられた。身辺自立については、自分でできることが自信になるため、丁寧に関わる援助ができたらいと思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」  
回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%

	<p>・「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.2%</p> <p>・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96.4%</p> <p>・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 84.3%</p> <p>・「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」 回答「あてはまる・概ねあてはまる」 100%</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>・上記の保護者アンケート結果より、概ね教育目標を達成していると考えられる。「自分のことは自分でしようとする」については、他と比べて数値は低いものの、個々の評価はプラスの評価をしており、成長が見られる。子どもの“しようとする”姿を認めあげられる“子どもを見守る目”で見ることの大切さを保護者とも共有していきたい。</p> <p>・昨年度に引き続き「創造力の育成」をテーマに、子どもの“やりたい”思いを大切にし、その思いを実現できる環境構成や教師の援助の在り方について考えてきた。子どもがいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる姿からも遊びを創り出す喜びを感じていることが分かる。</p> <p>・次年度は、さらなる環境の充実を図るとともに、一人一人の子どもの育ちや心の動きを丁寧に捉え、創造力の育成を目指したい。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>子どもの育ちに願いをかけ、“ありのままの姿を認める”ことが子どものよりよい育ちにつながる。大人がどのような眼差しで子どもを見るか、保護者と教職員が同じ方向を向き、一人一人の成長を一緒に共有しながら、子どもも保護者も教職員も安心して過ごせる幼稚園となる幼稚園経営を目指していきたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>・「自分のことは自分でしようとする」に関しては、前回の結果と比べると向上しているようなので、保護者の方も丁寧に子どもに関わろうとされていることが分かる。子どもの“やろう”としている気持ちを褒め、子どもの自信につなげたい。</p> <p>・子どもたちや保護者が幼稚園のことが大好きで、毎日楽しく通っていることを嬉しく思う。これからも幼稚園と保護者が連携して、子どもたちのために取組を進めてほしい。</p>

## （２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

<b>具体的な取組</b>	
<p>・下京雅小学校との合同研究組織において研究を推進する。研究保育、研究授業、エピソード研修、合同研修会などを実施する。架け橋プログラム研究ブロックの園としての取組を進める。</p>	
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b>	
保護者アンケートの評価項目	
<p>・「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいる」</p>	
中間評価	
<b>各種指標結果</b>	
<p>・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関りやふれあいを楽しんでいますか」</p>	

回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96.6%

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> 保護者アンケートから、子どもたちは人との関わりや触れ合いを楽しんでいることが分かる。同敷地内にある小学校を身近に感じ、日ごとの自然な交流により園児にとって小学生は親しみのある存在となっている。このような小学生との交流や教職員同士の連携が子どものよりよい育ちにつながっている。交流をする際は、お互いのねらいを共有し、互惠性のある活動内容になるよう話し合うことを大切にしていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 交流活動が互いに意義のある活動となるよう、事前にねらいや内容を話し合っていく。また、交流での子どもの姿を共有し、よりよい架け橋期の教育を目指す。また、後期には地域の就学前施設との交流も計画しているため、よりよい交流となるよう教師同士での話し合いをしていきたい。
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> ○公開保育他、研究発表会の実施 ○交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り
	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 下京雅学区の子どもたちはこちらが挨拶する前にも進んで挨拶をする。大人に対しての安心感、親しみがあり、とても気持ちがよい。これは小学校と幼稚園との交流が盛んに行われており、異年齢で交流することの喜びを感じているからなのだろう。地域としても幼小連携を応援したい。

#### 最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> ○公開保育他、研究発表会の実施 ○交流保育の実施に向けた話し合いや交流後の振り返り	
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> ・公開保育や研究発表会に向けて、小学校教師と話し合うことで新たな視点で保育を見直すきっかけとなり、より充実した保育の実践ができた。 ・合同研究発表会や架け橋プログラム実践発表では、3年間の実践を全市、全国に向けて自校園の取組を発信し、評価をいただくことができた。 ・授業だけでなく、休み時間での小学生との自然な交流（園内展や生活発表会での交流や運動場での交流）が“優しさ”や“思いやり”といった心の育ちにつながっている。 ・交流当日だけでなく、当日に向かうまでの生活や学習の流れも話し合い、共有したことで、子どもたちが互いに相手意識をもち、思いがつながる交流となった。 ・小学校を中心に、保幼小の教員同士のつながりができている。今後も子どもたちにとってよりよい育ちにつながるよう、教員同士が互いの教育観や子ども観を語り合う連携を進めていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・交流内容や時期を精査するとともに、保・幼・小の教員同士が子どもの姿や育ちについてそれぞれの立場での思いや考えを語り合い、共有できるコミュニティーを構築していくこと。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内に小学校、幼稚園、小規模保育園があるという環境を十分に活かして、交流や連携が充実できるよう取組を進めておられる。地域の就学前施設とも連携しており、地域の子どもたちを地域で育てるという理念に沿った取組がされており、今後もよりよい取組となるように互いに話し合いを深めながら進めてほしい。地域の中でも、発信のお手伝いをしていきたい。</li> </ul>
---------	---

### （３）預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の心身の負担に配慮し、１日の幼稚園生活を見通し、心と体を落ち着けて遊ぶことができる環境の設定や人員配置を行う。</li> </ul>
（取組結果を検証する）各種指標	
保護者アンケート評価項目	
「安心して子どもを預かり保育に参加させている」	

#### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設問「保護者は安心して子供を預かり保育に参加させていますか」</li> </ul> <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」８６．７％</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>参加させている保護者は、安心して参加させていることが分かる。利用者も多く、子育て支援としての役割を果たし、有効に活用されていると思われる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>特別に支援の必要な園児も多く利用しているため、担当教員と連携を密にとり、園児が安心して参加できるようにする。</p> <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>預かり保育参加者数や参加者の感想等から検証する</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>引き続き、子育て支援としての役割を担い、安心して利用できるように努めてほしい。</p>

#### 最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設問「保護者は安心して子供を預かり保育に参加させていますか」</li> </ul> <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」９８．０％</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の温かな関わりや場の工夫を行ったことで、預かり保育が安心して、ゆったりとした気持ちで過ごせる場や時間となることができている。</li> <li>・サッカーをコーチから教わったり、地域の方による人形劇鑑賞を楽しんだりする計画を実施し、子どもが楽しく過ごせる場となるように工夫した。また、保護者ボランティアに来ていただき、子</li> </ul>

	<p>どもと一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせをしたりする取組も預かり保育での様子を知っていただく良い機会となった。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な経験ができるよう活動計画を立てたり、新しい玩具を用意したりするなどし、預かり保育の充実に努めていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育を利用することで、子どもにとっても保護者にとっても心身ともに安心・安定につながるよう、引き続き有意義な取組を進めてほしい。</li> </ul>

#### （４）子育ての支援に関して

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や未就園児の様子を温かく見守り、声をかけて相談に応じたり、保護者同士をつないだりし安心感につなげる。</li> <li>・未就園児を対象に季節の行事や遊びなど魅力的な活動を行う。</li> <li>・満３歳児や２歳児、地域の小規模保育園児が安心して幼稚園での遊びを楽しむことができる場を提供する。</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園クラスの取組の内容と参加の保護者の様子、人数、日数</li> </ul>

#### 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <p>ホームページや SNS など、教育相談を知ったり、自園の教育について知ったりし、登録者数も少しずつ増えている。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>参加している保護者同士が子育てについて語り合う場があることで安心して様子が伺われる。活動場所が幼稚園遊戯室の日と小学校地域交流室の日があり、小学校の日の利用は減少してしまう。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>小学校での活動の日でも玩具等の子どもがやりたくなるような環境を工夫し、子どもも遊びたくなる場所、保護者もほっこりして語り合える場所となるようにしていきたい。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせや入園につながったかを確認する。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>地域も連携しながら進めていきたい。</p>

#### 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週 2 回の未就園児クラスの活動場所が、遊戯室と小学校の施設を借りる日があるが、遊戯室の活動の日は利用者が増加する。</li> <li>・地域の小規模保育園の園児に園に遊びに来てもらい、子ども同士の自然な交流の中で、一緒に遊ぶことを楽しんだ。</li> <li>・満 3 歳児クラスが始まり、人員配置や活動場所など体制を整え、子どもや保護者に安心して利用していただいている。</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスを利用する保護者は、在園児の遊ぶ様子を見たり、在園児が子どもと交流したりすることを楽しみにしている。教師の子どもの関わり方から子育ての参考にされることもあるそうだ。ホームページや SNS、幼稚園説明会等で自園の教育について丁寧に発信するとともに、幼稚園での活動場所や環境についても工夫していきたい。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児クラスや満 3 歳児クラスの活動場所や環境の工夫をする。</li> <li>・在園児との交流がもてる機会も計画する。</li> </ul>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楊梅幼稚園の教育の発信に向けて、できることがあれば協力していきたい。</li> </ul>

## （５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観や懇談の機会を増やし、家庭との連携をはかるとともに幼児の発達や幼稚園教育への理解を深めることができるようにする。</li> <li>・地域の伝統文化（葵祭、祇園祭、扇子の絵付け体験）に触れる機会をつくる。</li> </ul>
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <p>○保護者アンケートの評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもはいろいろなものやこと、人とのかかわりやふれあいを楽しんでいる」</li> </ul>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」</li> </ul> <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96.6%</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS やホームページ、地域だより（楊梅だより）の発信により、広く幼稚園について発信している。更新頻度が高いこともあり、自園の雰囲気や教育についての発信となっている。</li> <li>・5 歳児が地域の伝統文化に触れる体験ができ、その後の遊びや生活の充実につながった。家庭ではできない体験をすることができ、保護者も喜んでいる。</li> </ul>

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>地域の子育て支援施設の拠点として、小学校や地域の就学前施設、地域全体をつなぐ役割を担っていく。</p>
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <p>保護者アンケートの実施</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>子どもたちや保護者にとって、幼稚園も含め地域全体が安心できる場、子育てがしやすい場となるよう、地域も協力していきたい。</p>

#### 最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <p>・「子どもは、いろいろなもの、こと、人との関わりやふれあいを楽しんでいますか」</p> <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」 98.2%</p>	
自己評価	<div>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <p>・キッズギャラリーや生活発表会では、保護者に展示された作品や、発表会当日の姿を見てもらうだけでなく、そこに至るまでの過程(子どもが楽しんできたこと、教師の願いなど)を伝えるようにした。また、書いてもらった感想を子どもに還元したり、クラスみんなで子どもたちを認め合う場(ほっとタイム)をつくったりしたことで、子どもたちも保護者も“楽しかった”と実感できた。</p> <p>・子どもたちは、小学校だけでなく、地域の小規模保育園の園児やチャレンジ体験の中学生とのふれあいや、行事等(伝統文化体験や人形劇、サッカー等)で来てくださった講師や地域の方など、様々な人との出会いを通して、人への信頼感や安心感をもち、人と関わることの喜びを感じている。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>・ホームページやSNSで幼稚園教育を発信するとともに、子どもを真ん中に、保護者と教職員が子ども一人一人の育ちを喜び合える場や時間を引き続き大事にしていきたい。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>夏祭りなど、地域の行事に子どもたちが喜んで参加してくれることを嬉しく思う。積極的に参加してもらい、自分たちの住んでいる地域が好きだという気持ちをもつきっかけになってほしい。</p>

#### (6) 教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <p>見通しをもって勤務時間内に効率的に仕事に取り組み、優先順位をつけながら業務をこなす。</p>
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人一人の多様な働き方、職種や世代の違いなど、意識改革を進める。</li> <li>・会議の効率化、校務支援員との連携、行事などの役割分担など、日々の業務を見直し改善する。</li> <li>・長期休業中の年休取得日を増やす。</li> </ul>
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <p>○長時間勤務の時間数</p>



○年休取得日数

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b> 長時間勤務の時間数は減少し、年休取得日数も増加している。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> 働き方改革の意識が定着してきており、ICT 機器を活用や校務支援員との連携、活用により事務の効率化が図れている。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 見通しをもって保育や研修の準備をすることで、より効率的に時間を使うようにしたい。
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> 長時間勤務の時間数と年休取得日数
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 仕事内容を厳選し量を減らしても、質は向上する、そんな働き方改革ができれば素晴らしいと思う。地域もできることは協力したい。

#### 最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> ・超過勤務時間は減少している。 ・長期休暇期間での年休の取得も体制を整え、代わりあつて取得できた。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> ・行事前は準備のため超過勤務時間は増えてしまう日もあったが、見通しをもって計画的に準備を進めることができたため、超過勤務時間を極力抑えることができた。 ・年休取得ができる体制を整え、教職員が心身ともにリフレッシュできるように図ることができた。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・引き続き、先を見通した計画と立案、及び役割分担を行い、保育に向けての時間に十分充てられるようにする。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> ・働き方改革を進めながら、質の高い教育を目指して引き続き取り組んでほしい。